

自己点検・自己評価報告書(令和6年度)

学校法人 瓶井学園
日本メディカル福祉専門学校 臨床工学科
令和7年4月1日作成

1. 学校の教育目標

最先端医療分野を担うチーム医療のスペシャリストとして、臨床現場で必要となる基礎医療知識及び工学技術を持ち、かつコミュニケーション能力の高い優れた臨床工学技士を育成する。

2. 令和6年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 工学の基礎となる基礎理数系科目の理解度を向上させる。医療系分野においても課題を与えての問題解決能力の向上を狙う。
- (2) 臨床工学技士国家試験および第2種ME検定試験の一人でも多くの学生を合格させるため夏休みの補講授業および個人対応などを積極的に取り入れる。
- (3) 医療に携わる者として、また一社会人として必要となるマナーの習得を強化する。
- (4) 有識者や医療施設等の関係者からの意見を取り入れ、より実践的な知識・技能の修得を目指し、授業内容を充実させるとともに臨床現場で活躍する卒業生の特別講義を実施する。
- (5) 学生だけでなく、卒業生・保護者にも、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信する。
- (6) 教員の資質・指導力を向上させるために、学会や勉強会などへの参加の強化。
- (7) 学生数の減少に伴い、資料請求者への連絡、ガイダンスへの積極的な参加および、学校情報のSNS発信や動画発信を行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	
学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 ③ 2 1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向け て方向づけられているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、対外的にはホームページ、学校案内などに記載しており、概ね周知されている。
- ・保護者に入学式の案内状を送付し、式への列席を促した。入学式後学校にて保護者懇談会も実施した。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④	3	2	1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・令和6年度も、病院で働く臨床工学技士との連携の強化、外部意見を取り入れた教育内容の見直し、教職員の質の向上及び情報公開に取り組んだ。
- ・定められた運営方針は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、各委員会・研修会を開催し、学校運営を行っている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、ニーズに沿ったものになっているかどうか、適宜見直す必要がある。
- ・ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行い、「学校案内（パンフレット）」、「募集要項」についてもホームページで閲覧できるようになっている。
- ・証明書の発行や卒業台帳の作成、卒業証書の発行などの業務のデータ化が整備され効率化を図られているが入学から卒業までの一元管理に向けて、事務側と教務側で意見交換を行っている。事務側と教務側での連携については、強化が図られており処理はスムーズに行われている。

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力・育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・厚生労働省が指定する臨床工学技士養成施設として、臨床工学技士法改正により令和5年度よりカリキュラム内容の追加項目があり、新カリキュラムによる授業を実施している。
- ・臨床工学技士資格取得は、カリキュラムの上で明確に目標として定められており、取得をサポートできる教育内容になっている。また社団法人日本生体医工学会実施の第2種ME技術実力検定についても推奨しており、夏休みに対策授業を実施している。
- ・指定カリキュラムが大半を占めるため難しい面はあるが、毎年、教育課程編成委員会の意見に基づき可能な範囲内でカリキュラムの工夫・改善への取り組みを行ってきた。
令和6年度は
①卒業生による特別講義の実施を行った。
②民間救急による救急蘇生実習を各学年において行った。
③クリニックでの模擬実習（OSCE実習）を行った。
④卒業生による臨床工学研究会を行った。
毎年見直しを行い、学生にとって効果的な実習を心掛けている。
- ・法令により教員資格要件が設定されているため、専門分野の知識について十分なレベルの教職員を確保できている。
- ・各臨床工学技士会、循環器関連、血液浄化関連の学会などにも毎年学生にも参加させている。

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	①	
退学率の低減が図られているか	4	3	2	①	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- 臨床工学技士国家試験対策、面接指導等、就職に向けての指導を行っているが、とくに国家試験の合格率が一時期に比べると下がってきている。資格取得に向けての意欲の低下がみられる。
- 令和6年度では1年次で授業料が払えない理由から退学者が1名、同じく1年次で進路変更を理由に1名あった。また3年生は休学から復学したが、学校に来ることができなかった学生が1名で合計3名の退学者があった。保護者との連絡の充実、細かな目標設定、卒業生による特別講義の実施など将来像の再確認等を行い、退学者の低減を図る必要がある。
- 令和6年度の臨床工学技士国家試験の結果は67%となり、ほぼ全国平均を下回った。残念ながら4名の不合格者がでており、不合格者については聴講生として、受け入れ受験指導を行っている。
- 国家試験不合格者については、希望によっては聴講生として受け入れ聴講生のみの特別な講義を週2回ほど行っている。基礎からの勉強を行い、自分で考えて国家試験の問題を解けるように訓練を行っている。
- 現在多種多様な学生さんが入学しており担任一人だけでは対応するのが困難な状況になりつつある。場合によっては他学年の担任も含めて教職員全体での対応を行っている。
- 臨床実習時に患者さん対応に困らないように、令和6年度は、新たに1年生を追加し、1年生、2年生を対象として12月には卒業生のいるクリニックにおいて、患者さんへの対応を模擬して実習（OSCE実習）を行った。令和6年度も卒業生や臨床工学技士の方に参加していただき、臨床実習に行く前に患者さんへの対応での知識と技術を習得する機会を得た。
- 令和6年度は民間救急の企業の申し出により、救急蘇生の実習を全学年参加で行った。医療従事者として働く上で救急蘇生での状況確認、人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの使用方法を学んだ。
- 有志の卒業生による臨床工学研究会が実施され、学生が全員参加しました。卒業生による最新の研究発表や臨床工学に関する国際的な活動報告などがおこなわれました。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生への生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1	
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・学級担任制により、学生の相談には主に担任が主に対応し、各学生に対する情報共有をしている。また担任以外でも学生の情報を共有し、対応できるよう心掛けている。
- ・学生が個々に就職活動をするのではなく、学級担任と相談の上で進路を決定する仕組みになっており、進路・就職に関する支援体制は学生にとって充実したものになっている。
- ・成績・出席の状態について学級担任より保護者に連絡しており、特に成績・出席の状態が芳しくない学生の保護者に対しては詳しく状況を説明し、学校側と保護者との連携をはかり、問題を解決できるようにしている
- ・就職活動については例年より早く活動するよう促し、結果早い段階で受験先を決め、結果内定をいただいております、今後もこのように対応していきたいと考えています。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・最新設備の導入・設備のリニューアルについて適切に対応しており、教育上有効に機能している。
- ・実習時等の事故防止の教育体制は整備されている。
- ・非常時における教職員の役割分担を決め、適切な誘導ができる体制をとっている。
- ・令和7年度より新しいカリキュラムによる臨床実習がスタートする。そのための事前準備を行った。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1	
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全教職員が適切な学生募集活動を行っている。
- ・学校案内、ホームページ等において、授業内容、資格の内容等を示しており、適宜見直し・改良しているが、より正確かつタイムリーに志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める必要がある
- ・令和6年度も引き続きホームページにて「学校案内」、「募集要項」を閲覧できるようにした。
- ・オンラインによるオープンキャンパスを実施したが、申し込みは少なかった
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校独自の奨学金制度も利用できるようになっている。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1	
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行い、より深い理解に努めている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、教職員教育を実施している。
- ・自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。
- ・令和6年度も昨年度に引き続き、ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行う。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1	
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・中学校や高等学校生徒の職場体験の受入れ等を行い、各教育機関や地域との連携・交流を図っている。
- ・ボランティア活動は呼び掛けてはいるが、令和6年度は参加する学生がなかった。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				評価委員 確認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1	

【総括・特記事項】

- ・留学生の学習・生活指導等については、学級担任が密にコミュニケーションを取り、学習能力・習熟度・生活状況等を把握している。
- ・令和6年度も留学生の入学志願者が2名であった。留学生にも本学科を知っていただき日本語学科と連携し学校見学会を実施した。
- ・日本語が上達していない学生に対しては、個人的な面談や話を聞くことを増やし。とにかく話かけることを念頭におき、日本語を使う機会を増やしていく

4. 昨年の学校関係者評価委員会の委員の方のご意見から

1. 学校長より臨床工学科の評価に1が2つ（資格取得率、退学率の低減）あることについてのご意見

檜村委員

年々学生の学力の低下をものすごく感じる。分野に興味がない学生や中学レベルの学生も大学や専門学校に入学しているケースが増えている。成績が良い学生と悪い学生のどちらに合わせたおこなうか困難な状況にある。また本来であれば理論や考え方を授業で教えたいところであるが、それを行うとついてこれない学生がいるため、国家試験合格のためには公式にあてはめて解くスタイルになってしまっている。

太田委員

家庭環境で学校に来るのが難しい学生であれば、住んでいる地域の相談窓口との連携が必要になってくるのではないかと思った。

北野委員

子ども自身が「やってみたい」「できるようになりたい」という環境づくりをしなければならないということ伝えていく。結果はもちろん大切なことだが、結果以上に取り組んでいる過程を大切に伝えるように伝えている為、教育現場の教員もそこを大切にすることが大事かと思う
大事なのは成功体験ばかりでなく、失敗した時にどうすればよいかという方法を伝えたり、考えられるようにして乗り越えられる力を身につけていけるようにしていくことが大事だと考える。

2. 学校長より各委員より「結果ではなく、その過程を大事にすることが重要」「社会に出たら結果が求められるところがあり成果につながらないとダメ」の意見があるが、どう天秤にかけていけばよいのか？

北野委員

成果を出すために子どもに無理やりやらせ、結果子どもへの負担が増える。子ども1人ひとりに合わせた過程を大事にし、時間はかかるが、伸びしろを考えてあげてほしいと思う

檜村委員

国家試験があるところとそうではないところと専門学校や大学で子どもたちが学ぶ目標に若干違いがあると感じている。将来的に、社会に出てどういうことをやっていくのかとか、なぜそういったことをするのか、そういった教育を1年生の間にしっかりとあげることが重要だと感じる。

難しい部分ではあるが、委員の先生方のご意見から、1年生のうちからのしっかりした教育が必要であると感じた。現在も卒業生による特別講義で「臨床工学技士の仕事と学生のうちに必要な知識」行っているが、様々な卒業生からの講義を行っていただく調整を行っている。また、学内の教員ひとりひとりが1年生のうちから授業以外でもしっかり話をすることが大事であると考えている。臨床工学の基礎、基本をしっかり植え付け、それがどのように応用されているかをしっかり教えていきたいと考えている。また、学生ひとりひとりと向き合い個人に合わせて時間をかけて指導を行っていきたい。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育理念・目標

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、対外的にはホームページ、学校案内などに記載しており、概ね周知されている。

(2) 教育活動

・3年生など臨床実習前に必要な内容の講義や多くの医療機器や医療機器点検器具を取り入れ、様々な学内実習を行っている。実習前に必要な事前知識の習得に役立つ内容になっている。

・国家試験対策としては、講義だけではなく学生を少人数のグループに分け複数の教員を配置し、個人対応の対策強化を行った。

・臨床実習時に患者さん対応に困らないように、令和6年度は1年生、2年生を対象として12月には卒業生のいるクリニックにおいて、患者さんへの対応を模擬して実習（OSCE実習）を行った。令和6年度も卒業生や臨床工学技士の方に参加、指導していただき、臨床実習に行く前に患者さんへの対応での知識を習得する機会を得た。

・臨床現場で活躍する卒業生による特別講義を再開、実施しており、学会参加についても行っている。

・卒業生による臨床工学研究会を実施していただいた。臨床工学科の学生は全員参加した。卒業生による最新の研究成果の発表や、現在活動している内容など多岐にわたっての内容の発表があった。

・1年生については、午後の授業の空いた時間を利用し学校の周辺の散策を担任とクラス全員参加で行い、自然にお互いにコミュニケーションをとる機会を設けた。

・令和6年度は2年生、3年生に対して早い段階から第2種ME検定試験に対しての重要性について話を言い、対策講義15日間を夏休み中に行った。

(3) 学修成果

・臨床工学技士の国家試験に関しては4名の不合格者がでてしまい、個人対応やグループでの対応を行ったが全国平均を少下回った。このことを反省し、早い段階からの意識づけと国試対策授業を行っている。

・退学者についても1年生で2名、3年生から1名出たところから日頃からの声かけ、挨拶、学生の少しの変化での教員間の情報の共有、面談の実施など昨年度より強化している。

(4) 学生支援

・就職活動については例年より早く活動するよう促し、結果早い段階で受験先を決め、結果内定をいただいております。今後もこのように対応していきたいと考えています。なつた。

(5) 教育環境

・臨床工学科の新カリキュラムに向けて、それに伴い学内での実習については様々なシチュエーションでの実習が可能になった。

(6) 学生の受け入れ募集

・学校案内、ホームページ、SNS等において、学校での授業内容、資格の内容、行事などを示しており適宜見直し・改善しているが、よりたくさんの方々にも見ていただくようにしなければならない

(7) 社会貢献。地域貢献

・令和6年度はボランティアなどの呼び掛けを行ったが参加はなかった。

(8) 国際交流

・令和6年度に関しても留学生の入学希望者が2名（入学者は1名）であったため、令和6年度は日本語学科で連携して、見学会を実施した。多くの学生さんが参加していただき、学校説明、設備見学などしてもらいました。

6. 臨床工学科において委員の方々にご意見をいただきたい課題

(1) 学生対応について

・欠席の多い学生の対応について

近年、欠席の多い学生が増えている。理由は様々であり、体調不良、単なるさぼり、無断欠席もある。結果長期欠席になり、出席日数が不足し留年になってしまうケースがある。とくに体調不良の場合対応が難しい。

・学生の考える力をつけるには

スマートフォンなどの普及により、考えなくても答えを導きだせるものが増えている。その結果学生の考える力が減少しており、記憶力だけにたよる勉強法が浸透しております。結果答えを導きだす過程よりも答えを欲しがる学生が増えてきており、より一層の考える力をつけさせる方法を模索しております。

・失敗体験の少ない学生の対応について

近年の学生さんはいままでの経験の中で、失敗の経験が少ない方が多い。周囲が失敗しないように道筋をつくり、成功体験を得ている場合もある。そのような成功体験も大事であるが、失敗経験が少ない学生さんに限って根拠のない変な自信をもっており、実際には準備不足で国家試験などで失敗してしまうケースが増加している。

(2) 臨床工学技士養成校を目指す学生の減少について

臨床工学技士養成校の数が増え、全体の学生数が減少してきていることから臨床工学技士を目指す高校生や社会人が減少しております。また臨床工学技士だけでなく医療系全体においても減少してきている。

6. 臨床工学科において委員の方々にご意見をいただきたい課題

(1) 学生対応について

- ・ 欠席の多い学生の対応について
- ・ 学生の考える力をつけるには
- ・ 失敗体験の少ない学生の対応について

(2) 臨床工学技士養成校を目指す学生の減少について

臨床工学技士養成校の数が増え、全体の学生数が減少してきていることから臨床工学技士を目指す高校生や社会人が減少しております。また臨床工学技士だけでなく医療系全体においても減少してきている。